

福島野口英世空港

深 井 直 実

今年の夏、ニューヨークのJFK国際空港を経由して一年ぶりに、それまで16年間住んでいたボストンへ行って来ました。JFKというのはもちろんジョン・F・ケネディーです。その他世界にはシャルル・ド・ゴール国際空港、レーガン国際空港、ガリレオ・ガリレイ国際空港と人名を冠した空港は多数あり、ジョン・レノン空港、ボブ・ホープ空港などというの也有ります。今はもう無くなりましたがサダム・フセイン国際空港というの也有りました。

大学の名前を見てもジョージ・ワシントン大学、トマス・ジェファソン大学などアメリカの多くの私立校には人名が使われ、通りの名前や広場にも人名が、また建物あるいは博物館の展示ブースにも、貢献のあった人物の名前が使われることが多々あります。さて日本を見渡すとどうでしょうか。言うまでもなく、個人の名前を冠した公共施設や街路にはほとんどお目にかかりません。空港で言えば、ご存知でしょうか「高知龍馬空港」というのがあります、これが日本で唯一人名を使用したものです。

なぜこのようなことがおこるのかと言えば文化の違いかといいいようがありません。日本では個人の人格に対する価値付けが欧米に比較して非常に低い。個人は社会の一部であり、会社の一部であり、大学の一部である。全体責任。悪いことでも特定の個人に責任が帰せられる事はまれで、そのような場合はその個人が割をくったという事になります。第二次世界大戦後連合国側が戦争責任を追求したときにも、ドイツではヒトラーを筆頭に多くの個人が同定されたのに対し、日本では個人の名前を特定することが非常に困難であったと言われています。

この様な日本の没個人的な文化というのはサイエンスの世界に関しても言えます。人工多能性肝細胞（iPS細胞）を樹立したのは京都大学の研究者グループですね。ハイブリッド車で先端をいくのはトヨタですね。iPSを開発したのは山中伸弥教授のグループとはほとんど言われぬ。車の方などはハイブリッドの技術を押し進めた人間はいたのだと思いますが決して名前は表に出てこぬ。これは海外での学会の発表などでもしかりで、発見や発明を引用する場合、その発見や発明が外国人の場合、誰その発見したあるいは誰その発明したとされますが、それが日本人である場合は、日本人のグループの発見したあるいは発明したという引用のされ方をするのがほとんどです。主体が個人でなく日本人というグループに置き換わる事が多々あります。

さて私は奥羽大学に赴任し早いもので一年強が過ぎました。学生さんと接するのは楽しいものです。しかし低学年になるほどおとなしく、自己主張をしながらないように感じます。授業中に何か意見ありませんか、どう思いますか、解りますかあるいは質問は

ありませんかと問っても反応が有る事は非常にまれで、がっかりすることがしばしばあります。それでは意見がないかというそうでもない、内容を理解しているかというと必ずしもそうではない。何か聞くあるいは自己主張をするということが、恥ずかしいこと、すべきでない事と思っているのではないかとさえ思います。また周囲もそういう眼で観ているのではないのでしょうか。私は何歳であろうと、立場がどうであろうと解らないものは解らないのであるから聞けばいいと思っています。意見が違ったら議論すればいいと思っています。

この個人をなるべく押さえてゆくというのは、我々の受けてきた教育の影響が大きいと考えます。また、これは日本の文化なのだという人もいるでしょう。出る釘は打たれる、長いものには巻かれる。もっと古くは和を持って尊しとなすです。昨今では目立つといじめられるという事があるのかも知れません。

これに対してアメリカでは小さな時から、自分を主張すること、自分の意見をまとめて人に伝えること、そして議論することの大切さが教え込まれます。小学校では「Show and Tell」という時間があります。これは自分の事とか自分の持ち物など何でもクラスの前に出て自慢するという事をやります。中学・高校になれば「Debate」の時間があって、いかに議論するか技術を学びます。

私は日本のやり方が良くないと言っているのではありません。しかし、学問をするという大学に於いては、もっと各個人が自由に意見を述べ、自己を主張し、議論して行くということが大切ではないかと思っています。講義でも学生の皆さんの積極的な参加があったら、もっと活気があり楽しいものになるのではないかと思います。教員の方もそれに積極的に答えてゆく覚悟を持つ事が大切だと考えています。

数年前、福島空港の名前を「福島野口英世空港」に改名しようという運動があったと聞きますが、最近は話題にもならないようです。皆さんは「福島野口英世空港」という名称に賛成でしょうか、それとも強い違和感を持たれますか。

(奥羽大学歯学部生体構造学講座・口腔解剖学分野)